

はるか昔のことである。私たちは「新課程」で学ぶ生徒として高校に入学した。新しいカリキュラム、新しい入試制度。先生たちは事あるごとに「君たちは新課程だから〇〇しない」となると口にし、反発した私たちは「俺たちはモルモットじゃない!!」と叫んだ。はるか昔のことである。時を経て、すでにどこかで見たことのある光景が眼前に広がっている。立場は変わり、事あることに生徒たちに向かつて叫んでいるのは私の方だ。「君たちは新入試なんだから〇〇しない」と。いつの時代も現場は上からの決定に振り回される。来年度から施行される大学入学共通テストへの英語民間試験の導入延期が発表された日、校内には大きな衝撃が走った。「今になって……」。入試の公平性という視点からは疑問を抱かざるをえなかった民間試験導入だが、4技能を大切にするという視点そのものに異論はない。コミュニケーションは受け手も送り手にならなくてはならないものである。従来の「読む」「聞く」だけでなくは受信し、自ら発信してこそ他者とつながることができ、世界は遠くまで広がっていくのである。新入試で求められる「思考力・判断力・表現力」も大事だ。例えば、身につけた「知識」の中から必要な情報を取り出し、そこに基づく思考を重ねたあ

と、他者と共有できるような形で成果や結果を出す。それは議論において生かされ、他者の意見を自らの考えとすり合わせるながら、答えのない問いの「答え」に限りなく近づいていくこともできる。さらに「学びに向かう力」は言わずもがな、学ぶことの根幹に関わるものである。大学等へ進学後の学びにおいて不可欠となる主体的・協働的な姿勢は、高校時代の諸活動を通じて様々なことを体験し、振り返りをしていくことによって培うことができる。自らにどのような力が身についたのか、今後どのような活動に取り組めばいいのかを、三年間の高校生活の中で継続して考えていくことは、入試対策としてももちろん必要だが、何よりその人の人間的な成長につながるはずだ。いづれにせよ、充実した高校生活を送ったことが入試で評価されるというのは高校教員としても歓迎すべきことである。

上述したような「学力を身につけること」と「そして」「充実した高校生活を送ること」。これから進学しようと考えている皆さんにはこの二つのことを意識しているつもりかもしれない。日常の高校生活がますます重みを持つものになっていく中、我々も皆さんの高校生活の一日一日を大切に、夢の実現に向けてしっかりとサポートしていく所存である。

大切なのは? —「今でしょ!」

進学指導部長 岡 由美子

雲北陵月報

No. 412

令和元年12月20日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

美術部

美術部大躍進!!

第52回島根県高校美術展

時 12月13日～16日
於 島根県立美術館

全国総合文化祭高知大会出品決定!



「黎明からの表現」佐藤至将
今年度は全県から461点の応募があり、本校から38点を出品、35点が入選した。そのうち佐藤至将

(16歳)の絵画作品「黎明からの表現」と飯塚由宇(26歳)の映像作品「日本のスタイル」が全国大会推薦作品枠7点に選出され、来年度の高知大会に出品されることとなった。



「日本のスタイル」飯塚由宇

第52回島根県総合美術展(県展)

時 11月16日～24日
於 島根県立美術館



「森」福島夕映

島根県が主催する県総合美術展絵画部門に2点の出品をしたところ、全員の作品が入選した。一般の公募美術展に入選できたことは、生徒にとって大きな自信になった。

入選 絵画部門
景山こゆき(36歳)

福島 夕映(36歳)

薬物乱用防止啓発用ポスター

健康福祉部長賞受賞

全県から126点の応募があり、本校からは、原舞夏(26歳)と佐藤至将(16歳)の作品が健康福祉部長賞を受賞した。



原舞夏(26歳)の作品

就職状況

就職内定100%達成(11月末付)

9月16日から高校生の就職選考が全国一斉に開始された。本校の就職希望生徒はしっかりと準備を行い、ほとんどの生徒が第1希望の企業から内定をいただくことができた。

【県外】陸上自衛隊(2名)・海上自衛隊・トヨタ自動車(株)・(株)渡月亭

【県内】島根県職員一般事務員・(株)出雲田製作所(3名)・日研トータルソーシング(株)(4名)・(株)ジェイエムエス・出雲工場(2名)・ダイワボウプロダクト(株)出雲工場(2名)・(株)松井島根ファクトリー(2名)・(株)アルプロン島根工場・(株)出雲技研・(株)エディオン・企業警備保障(株)・(株)共立メンテナンス・(株)山九三和興業(株)・島根ナカバヤシ(株)出雲工場・島根県農業協同組合出雲地区本部・(株)日産サテライト島根・(株)大惣・(株)日新・(株)ニチイ学館・ヒラタ精機(株)・(株)美作グループ本社・(株)ミューゼプラチナム・(有)信愛フードサービス・(有)玉木製麺・(有)中田製作所・(有)羽根屋・(有)ブラス・(有)渡邊水産(2名)

進 学 状 況

北陵生健闘中!

高校三年生が健闘を続け、次々と志望校への切符を手にかけている。今後、大学入試センター試験に向けて追い込みを行い、更なる成果を挙げてくれるものと期待している。合格者の多くは、志望校への熱い思いを持ち、地道な努力を重ね、充実した高校生活を送っている。後輩の皆さんも後に続いて欲しい。

中央大学・国士舘大学・国立音楽大学・神田外語大学・大阪学院大学・神戸学院大学・広島修道大学・松山大学 などに合格

卓 球 部

第14回出雲北陵高等学校杯卓球大会

時 12月8日
於 本校

出雲市及び近隣の小中学校卓球部員相互の親善と交歓、技能向上とチームの強化を図る目的で、標記大会が本校体育館・黎明館卓球場で開催された。今大会には男子116名、女子68名が参加し、熱戦が繰り広げられた。また試合と並行して「コンディショニングセンターATRe(アトリ)」の妹尾翼先生による指導者・保護者対象のストレッチ講習を開催し、障害予防、パフォーマンス向上のためのストレッチについて、実技を交えて講義をしていただいた。今大会は個人戦のみの予選リーグ・決勝トーナメント方式で行い、男子は杉浦大和選手(出雲北陵中)、女子は常松世名選手(松江四中)が栄光を手にした。入賞者は次の通り。

優 勝

優 勝

2位 佐藤卓斗(出雲北陵中学校)

3位 村中悠海(青谷中学校)

3位 小野泰和(出雲北陵中学校)

優 勝

優 勝

2位 中野杏恋(青陵中学校)

3位 小川音羽(さんびるクラブ)

原 理業(平田仲良しクラブ)
(顧問 古瀬泰之)

テニス部

第13回中国高等学校新人テニス大会

時 11月16日
於 備前テニスセンター

優 勝

優 勝

1回戦 吉岡七生(25歳) ⑥-1 波田(宇部西)

2回戦 吉岡七生 3-5 (RET) 板垣(広陵)

大会総評 吉岡のみが出場し、昨年に続いて初戦は突破したが、2回戦敗退となった。この敗戦を糧に、次の大会に向け励んで欲しい。

(顧問 石川剛旦)

第18回学年別大会

時 12月14・15日
於 浜山公園など

〈1年生男子〉 3回戦敗退
〈2年生男子〉 3回戦敗退

大会総評 上位進出はできなかったが、テニスの質は向上しており、来シーズンに向けてさらに進化させたい。

(顧問 石川剛旦)

女子バスケットボール部

出雲地区高等学校バスケットボール新人大会

時 12月14・15日
於 出雲高校体育館

優勝 県新人戦ベスト4シード獲得

決勝戦の出雲高校戦では前半は良かったものの、後半相手のディフェンスに振り回され、得点をする事ができなかった。最後は何とか勝つことはできたが、課題が多くあり、今後、県新人戦に向けて練習に励みたいと思う。当日は保護者の方々はじめ多くの方から応援をいただき有難うございました。

2回戦 本校 97-34 三刀屋

決勝 本校 59-51 出雲

(顧問 篠原勝利)

第15回北陽マラソン大会

時 12月1日
於 スパーク出雲

〈高校男子の部28km〉

布野 隆省(31歳) 5位

〈高校女子の部28km〉

小瀧愛結美(15歳) 1位

マラソン日和といえる天候の中、今年32名の選手が、スパーク出雲、島根県立大学周辺のコースを力走した。本校からは、陸上競技部と硬式野球部から選手が参加するとともにスタート補助、選手受付の役員としても参加した。また、表彰式前には本校吹奏楽部によるマーチング演奏が行われ、選手や応援の皆さんを魅了した。参加しやすく親しみある今大会が今後も開催されていくことを期待して来年も頑張りたい。

(陸上競技部 顧問 別所美喜子)

第28回浜甲丁益田間駅伝競走大会

時 12月1日
於 浜田・益田

大社チーム 18位/38チーム参加

布野 隆省 区間27位(8区 6.5km)

この大会は、中学生から社会人の男女混成の駅伝大会である。益田陸上競技場を出発して9人でたすきをつなぎ、ゴールの浜田市を目指した。布野は昨年に続き、大社チームの一員として後半の長距離区間を任せられ、しっかりとたすきをつないだ。

今後、一人でも多く、各地域の代表に選出されるよう頑張っていきたい。

(陸上競技部 顧問 別所美喜子)

国体優秀選手表彰式

去る12月10日、サンパウロむらぐもにて第74回国民体育大会優秀選手表彰式が行われ、本校高校生では少年男子バスケットボールで5位入賞した中島龍馬・遠藤莉樹・濱井倫彦が、成年女子なぎなたで準優勝した井上美代教諭が表彰を受けた。これからは各々が高い目標を持ち取り組んでいければと思う。



吹奏楽部

第32回全日本マーチングコンテスト全国大会

時 11月24日
於 大阪城ホール

6年連続8度目となる全国大会出場となった。生徒たちは「全国大会金賞」を目指し、3年生を中心に最大限の努力をして大会に臨んだ。

本番では島根県並びに中国支部代表として、凛とした姿で立派な演奏演技を披露することができ、会場から大きな拍手をいただいた。しかし全国の壁は高く、銅賞という結果となった。目標としていた金賞には届かなかったが、新たな軌跡を残すことができたと感じている。

これまで支えていただいた保護者や卒業生の皆様、応援していただいた地域の皆様、この場をお借りし感謝申し上げます。

(顧問 竹内康貴)



ラスト1キロの力走

合唱部

第43回出雲市民余芸大会

時 12月8日
於 出雲市民会館



この度、標記大会に特別出演させていただいた一曲目は坂本九の「心の瞳」、二曲目は吉幾三の「雪國」、三曲目はモーニング娘の「LOVEマシーン」を演奏させていただいたが、会場の皆さんとともに盛り上がったステージとなった。これからは人の心に届く演奏を目指し、日々練習を重ね、頑張っていきたいと思う。
(顧問 太田裕子)

保育実習

先般、高校2・3年生普通コースの保育系列選択者が、出雲市内2ヶ所の保育園でそれぞれ今年度2回目の保育体験実習を行った。当日は担当クラスの日程に沿った活動の他、手作りおもちゃやベープサートの発表、絵本の読み聞かせなど、貴重な体験をさせていただいた。子どもたちの年齢や場面に応じた言葉かけ、接し方など、多くのことを学ばせていただいた。実習施設の皆様には大変お世話になりました。



税の作文

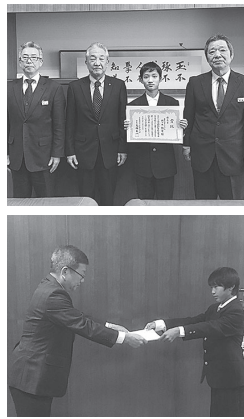
《中学校》
11月29日、本校にて「中学生の税について」の表彰式が行われた。佐々木凱音(中2北)は昨年に続いての受賞となった。

【受賞者】

○公益社団法人出雲法人会優秀賞
佐々木凱音(中2北)

《高等学校》

「税に関する高校生の作文」に応募したところ、本校から嘉藤優(中1北)が出雲税務署奨励賞に選ばれた。受賞に際し、出雲税務署から2名が来校され、本校で表彰式が行われた。(作文は、最終ページに掲載)



高校 新生徒会長・副会長決定

12月2日の立会演説会では立候補した4名の生徒がそれぞれ全校生徒に自身の思いを伝え、選挙戦がスタートした。限られた時間ではあったが、立候補者はしっかりと選挙活動を行い、9日の投票日を迎えた。当選した会長、副会長を中心とする新生徒会には、令和の時代に新たな歴史を刻むべく、生徒会を盛り上げてくれることを期待している。

○生徒会長 三宅 優也(中2北)
○副会長 奥井 寛太(中2南)
○副会長 船木 海唯(中2北)

中学校 新生徒会三役決定

12月2日に生徒会長立会演説会及び選挙が行われた。立候補者たちの演説を全校生徒が真剣な眼差しで聞き、それぞれがしっかりと考えたうえで投票を行った。選挙の結果、左記の生徒が新生徒会役員として選ばれた。学校全体を大いに盛り上げてくれることを期待したい。

○生徒会長 奥田林太郎(中2南)
○副会長 荒木 天(中2南)
○副会長 内藤 亮輔(中2北)
○議長 小林 典宗(中2北)

演奏会のお知らせ

本校吹奏楽部と合唱部がそれぞれ左記のコンサートを開催します。皆様のご来場を関係者一同、心よりお待ちしております。是非ご来場ください。

吹奏楽部

出雲北陵高等学校吹奏楽部
ウィンターコンサート

時 12月21日(土)
日 12月21日(土)
昼の部 13時30分開場 14時開演
夜の部 18時開場 18時30分開演
場所 出雲市民会館大ホール
入場料 無料



合唱部

出雲北陵中学・高等学校合唱部
クリスマスコンサート

時 12月22日(日)
日 12月22日(日)
13時開場 13時30分開演
場所 ビッグハート出雲白のホール
入場料 無料



中学校

卓球部

第42回島根県中学校選抜卓球大会

時 12月7日
於 大田市総合体育館

卓球部団体惜敗も、シングルス優勝!!

《男子団体》2位
《男子シングルス》
優勝 小野泰和(中1北)
3位 佐藤卓斗(中2南)

テニス部

MUFGジュニアトーナメント県予選

時 12月7日
於 松江総合運動公園
《15歳以下男子シングルス》
ベスト16 石川泰丞(中3南)

第2回校外講師特別講座

《ボランティア体験学習》

11月27日、校外から5名の講師の方々をお迎えし、1年生は高齢者疑似体験とデジタルサポート体験、2年生は点字と手話の体験学習を、また3年生は2班に分かれて平素お世話になっている倉庫と川跡のコミュニケーションセンターへ出掛け、清掃奉仕活動を実施した。

事後、生徒からは「不自由な人の苦勞が理解できた」、「自分の甘えを痛感させられた」、「お世話になっている方へ、気持ちだけでなく、行動で感謝の想いを伝えられて良かった」、「喜んでいただき、すごく嬉しかった」といった感想が寄せられた。

相手への思いやりも大切だが、自分自身を見つめ直すよい機会になった活動であった。



作品と研究

出雲税務署奨励賞

税について

嘉藤 優(12才)

僕たちの納める税金が国境を越えて活躍していることを知っていますか。

国の収入源は税金です。しかし日本は多くの国債という重荷を背負っています。そんな状況の中、日本は発展途上国への支援を行っています。消費税から生まれる経済協力費を使用し貧しい人や病気を持つ人など助けを必要とするたくさんの人を救うというものです。

「まず自国の充実が先では」。

そんな声も少なくないかもしれません。しかし僕は国内だけでなく世界中のどこまでも救う日本を含め先進国の税制度を誇りに思います。そして自分が納める唯一の税、消費税が人を救うとは、消費税なんてお小遣いもつたない、と思っていた自分がとても恥ずかしくてたまりません。同時に自分も尊い命を救う協力ができていると思うと何だか血が騒いできます。私のように消費税は自分自身が助けを求める人々へ差し伸べられる命綱であることを日本人の人が知れば積極的に税を納めてくれる人が多く増えるに違いありません。また、そんな人たちの購買意欲が高まることによって、その分十分なお金を稼ぐために、より精一杯働きます。それによって経済がよく回り景気が良くなります。この流れにしたがって国の充実へと発展してい

けることでしよう。

この上昇気流に乗るためには、やはり税に対して日本中の人々が関心を持つてもらうことが大切だと思います。それを実現させる大きな取組みがあります。それは「税を考える週間」というものです。現状、税金の話題に背中を向けてしまっている人が多くいると思います。

税金を納めることへの意味を理解することで僕にも気持ちの変化がありました。飲み物を買に行ったときのことです。

「二〇八円になります」

そう店員さんに言われると僕は一〇〇円の価値より八円の価値の方が大きいと思いました。商品の価格一〇〇円。人を救う協力となる八円。そう考えることができるからです。これは僕も税の作文を書くにあたり税金の仕組みや目的を知ったからこそ思えたことです。

ちりも積もれば山となる。この言葉のように税金も集まれば、世界中の人を救う大きな光となります。その一つの星となれるよう僕はこれからも税と向き合っていきたいです。

公益社団法人出雲法人会優秀賞

消費税の増税

佐々木凱音(中2)

この秋、10月1日から消費税が8%から10%に上がります。なんで、10%にあがるんだらう。僕は、これには、納得いきません。なぜなら、今までおこづかいで買っていたおやつやマンガの値段が上がると、僕のお小遣いが減ってしまうからです。できることなら税なんて支払わない

で安く買い物をしたいというのが本音です。でも、上がってしまうのならば僕は納得して税を払いたい。そう思っ

今の日本は、少子高齢化による現役世代の減少と高齢者の増加という大きな問題を抱えていて、税金や社会保障料などの国の収入を減らして社会保険の財源を確保することが消費税増税が行われる目的の一つだということ

これがわかってきました。消費税だと景気に左右されにくいので、安定した税収を得ることが出来ます。これに対して僕は、他の税でもいいのではないかと思っただけで、例えば、所得税や法人税を上げると、税収は増えるけどそれでは現役世代に集中した負担をかけてしまうことがあるし、利益部分に課税する税金だから不景気になつてしまうと、税収が減ってしまうかもしれない。ですから案手して税収を得るためには、一番ふさわしいという考えです。この

ことから僕は税が上がってしまうことは、少し仕方がないことだと思いましたが、税について調べる中で、僕は、10%に上がる消費税率を高いのではないかと思っただけで、消費税率が25%の国があることを知りました。僕は驚きました。日本の10%なんて低い方じゃないか！

しかし、なぜ25%の消費税率もある他の国々は、批判をしないのだろう。実は、たくさん支払っている税金で、充実した社会保障が還元されているのです。たとえば、医療費や教育費が無料になる。これは、全ての国民が病気になつても、安心して病院に行つて手当てしてもらえたり、平等に教育を受けることができる。これは、とても素晴らしいことだと

思います。さらに日本ではとても問題になつてきている待機児童がゼロ。お母さんが働きやすくなる育児制度も充実しているらしい。税をたくさん払つても、国民の生活が苦しいというわけではないようです。このように、税金が高くて、安心して生活する事ができるのであれば、その方がよいのではないかと思いました。これらのことから、僕は、消費税が上がることについては納得しました。消費税を払うことで、これらの生活が豊かになっていくのであれば、払っても良いと思いました。でも、まだまだ僕のように増税をよく思っていない人も多し、ちゃんと払った税金で、安心して暮らせる、社会になるのかという不安もあります。僕にできることは、きちんと税金を払うことです。もし安心して暮らせない世の中になつていたら、また考え直せるように税金の知識を身につけておきたいです。

今月1枚

「18の夏」

第47回島根県高校写真展審査会 奨励賞

梶野 莉菜(14才)

